



ロータリーは機会の扉を開く

2020-21年度国際ロータリーテーマ

2020～2021年度クラブ目標

『35年目の再構築 ロータリーの源流へ』

会長 吉野敬之
幹事 堀田一彦

創立 1986年



第1654回例会

令和3年1月28日 (18:30～19:30)

○ソング

- 我等の生業

○スマイルBOX

- 堀田一彦幹事 (吉田充会員、鈴木孝幸会員、卓話ありがとうございました。)
- 金田昇会員 (ハイブリット例会、新しいスタイルです。うまく運用できるまでもう少しですね。IT委員会がんばって下さい。)
- 渡部勝也会員 (ハイブリット例会は出席率が良いようですね。下半期分まとめでのスマイルです。)
- 青木大会員 (今日の民友新聞に35周年記念事業の「ミャンマーにランドセルを送ろう！」が記事として掲載されました。早くも事務所にランドセルを届けてくれた方もいました。ありがとうございます。土曜日、ゴルフで今年初の80台が出ました。堀田君、運天君、ありがとうございます。)
- 永野文雄会員 (建築に関する卓話をありがとうございます。吉田充パスト会員、鈴木孝幸会員、ご苦労様でした。)

▶第1654回例会出席状況 (R3年1月28日)

Ⓐ 出席免除を受けていない正会員数	47名
Ⓑ 出席免除の適用正会員数	14名
Ⓓ 全正会員数	61名
Ⓒ ①の出席者数	29名
Ⓔ ①のメイクアップ者数	1名
Ⓕ ②の出席者数	8名
Ⓖ = ③ + ④ + ⑤ (メイクアップ補填後の出席会員数)	38名
Ⓗ = ⑥ - (⑦ - ⑧)	55
Ⓘ = ⑥ / ⑨ × 100 (例会出席率)	69.1%



ハイブリット例会

場合40万ポイント。1ポイントが1円ということなので、40万円分のポイントがいただけるというふうな形で、特例の場合100万ポイント、100万までというふうな形になっているようです。それで②番で省エネ住宅に適合するというのは、断熱等級が4、かつ一次エネルギー等級が4以上を満たす住宅ということで、これも結果的には省エネ住宅基準をクリアしている住宅に関してポイントがもらえるという形になりますので、基本の場合30万ポイントと特例の場合で60万ポイントというふうなことになっています。それから、既存住宅購入、持ち家に対しては空き家バンク登録住宅とか、東京圏から移住するための住宅、それと震災リスクが高い区域からの移住ということ。それと、住宅除却に伴い購入する既存住宅ということで、ここにも30万ポイントと15万ポイントというふうなことでポイントがいただけるということになっています。それから、住宅の新築という部分でこれも省エネ性能を有する住宅に対してのポイントが書かれています。それと、私ここで住宅のリフォームという部分で、持ち家と賃貸が一戸当たりの上限が30万というふうな部分で、そこに書いてあるとおりガラス窓とかドアとかのガラスのほうの性能の良いものを使うと、その部分に対しての補助金が出ますよと。エコ住宅設備ということで、太陽光システムとか、節水型トイレ、あと給湯は節湯水栓のそういった省エネ水栓を使うと補助金が出るというふうな形になっています。あとそこに書いてあるとおり、バリアフリー改修とかそういったものについてもポイントがいただけるという形になっていますので、もし自宅

を改修する際はそういったポイント制度いろいろ調べていただいて申し込んでいただければと思います。今回のコロナ禍のその部分でいくと、住宅ローン減税制度が今まで10年だったんですが、今回の部分でいうと13年、3年間伸びるというふうなことが書いてあります。それから、贈与税の非課税枠が今まで700万だったのかな。それが1,500万に増えるというふうなこと。住まい給付金が最大で50万円というふうな形ということですね。あとは、既存住宅における断熱リフォーム、戸建て住宅におけるZEHに補助という部分で補助金が出るようです。そんなところですが、私はこういった建築業界に携わっていながら、なかなかこういった新しいものが出てくるとそれに対していろいろ調べて右往左往しながらお客さんに提案していかなくてはならないんですが、こういったポイントこれから多分コロナの影響でいろんな形でいろんな業種にそういった経済のダメージというものが出てくるであろうというふうな推測される中で、国が今やっている飲食関係に対する補助法であったり、旅館に対するGoToであったりという流れの中で、そういう意味合いでいくと住宅、建設関係に対しての補助という形になるのかなというふうに思います。是非とも、本当に先程孝幸君が言ったように、ナルイ工業さんと言えばペアガラス、トリプルガラス、いっぱいありますので、佐藤春洋商店さんに行けばエコキュート等ありますので、会員各員のお店に是非お声をかけていただいて利用をしていただければというふうに思います。

グリーン住宅ポイント制度の概要

別添1

1 制度の目的・概要

高い省エネ性能を有する住宅を取得する者等に対して、商品や追加工事と交換できるポイントを発行することにより、グリーン社会の実現および地域における民需主導の好循環の実現等に資する住宅投資を喚起し、新型コロナウイルス感染症の影響により落ち込んだ経済の回復を図る。

2 ポイントの発行

令和2年12月15日(閣議決定日)から令和3年10月31日までに契約を締結した一定の省エネ性能を有する住宅の新築(持家・賃貸)、一定のリフォームや既存住宅の購入が対象

住宅の新築(持家)

対象住宅	発行ポイント	
	基本の場合	特例の場合*
①高い省エネ性能等を有する住宅 (認定長期優良住宅、認定低炭素建築物、性能向上計画認定住宅、ZEH)	40万Pt/戸	100万Pt/戸
②省エネ基準に適合する住宅 (断熱等級4かつ一次エネルギー等級4以上を満たす住宅)	30万Pt/戸	60万Pt/戸

*特例の場合(以下のいずれかに該当)
 ・東京圏から移住^{※1}するための住宅
 ・多子世帯^{※2}が取得する住宅
 ・三世帯同居仕様である住宅^{※3}
 ・災害リスクが高い区域^{※4}から移住するための住宅

既存住宅の購入(持家)

対象住宅	発行ポイント
①空き家/バンク登録住宅	30万Pt/戸
②東京圏から移住 ^{※1} するための住宅	(住宅の除却を伴う場合は45万Pt/戸)
③災害リスクが高い区域 ^{※4} から移住するための住宅	
④住宅の除却に伴い購入する既存住宅	15万Pt/戸

住宅の新築(賃貸)

対象住宅	発行ポイント
・高い省エネ性能を有する(賃貸住宅のトップランナー基準に適合)全ての住戸の床面積が40㎡以上の賃貸住宅	10万Pt/戸

住宅のリフォーム(持家・賃貸)

発行ポイント数：1戸あたり上限30万Pt
【上限特例①】若者・子育て世帯^{※5}がリフォームを行う場合、上限を45万Ptに引上げ(既存住宅の購入を伴う場合は、上限60万Ptに引上げ)
【上限特例②】若者・子育て世帯以外の世帯で、安心R住宅を購入しリフォームを行う場合、上限を45万Ptに引上げ

対象工事等	発行ポイント数	
	ガラス	0.2~0.7万Pt/枚
窓・ドア	内外窓	1.3~2.2万Pt/箇所
	ドア	2.4, 2.8万Pt/箇所
	外壁、屋根・天井又は床	5, 10万Pt/戸
断熱改修	外壁	1.6, 3.2万Pt/戸
	屋根・天井	3, 6万Pt/戸
エコ住宅設備	太陽熱利用システム、高断熱浴槽、高効率給湯器	2.4万Pt/戸
	節水型トイレ	1.6万Pt/台
	節湯水栓	0.4万Pt/台
耐震改修		15万Pt/戸
	手すり	0.5万Pt/戸
バリアフリー改修	段差解消	0.6万Pt/戸
	廊下幅等拡張	2.8万Pt/戸
	ホームエレベーター設置	15万Pt/戸
	衝撃緩和量の設置	1.7万Pt/戸
リフォーム照会保険等への加入	0.7万Pt/契約	

※既存住宅を購入しリフォームを行う場合、各リフォームのポイントを2倍カウント
 ※上記算定特例を除いた発行ポイント数が5万Pt未満のものはポイントの発行対象外

いずれか必須

任意

※1)東京圏から移住：一定期間、東京23区内に在住又は東京圏(東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県)(条件不利地域を除く)に在住し東京23区内へ通勤している者が行う東京圏(条件不利地域を除く)以外への移住
 ※2)多子世帯：18歳未満の子3人以上を有する世帯 ※3)三世帯同居仕様である住宅：調理室、浴室、便所又は玄関のうちいずれか2つ以上が複数箇所ある住宅
 ※4)災害リスクが高い区域：土砂法に基づく土砂災害特別警戒区域又は建築基準法に基づく災害危険区域(建築物の建築の禁止が定められた区域内に限る)
 ※5)若者世帯：40歳未満の世帯。 ※6)子育て世帯：18歳未満の子を有する世帯

3 ポイントの交換対象商品等

- ・「新たな日常」、「環境」、「安全・安心」、「健康長寿・高齢者対応」、「子育て支援、働き方改革」、「地域振興」に資する商品
- ・「新たな日常」(テレワークや感染症予防)及び「防災」に対応した追加工事

※住宅の新築(賃貸)は追加工事のみ

塗装したり塗装断熱ですね。そういった工法もあります。開口部につきましては、サッシですね。これについては、内側に樹脂製の内窓を施工したり、窓に塗装断熱。窓用の断熱がありましてそれを施工したり、あとはカーテンをちょっと厚手のものに入れ変えたり、フィルムを張ったりというふうなことがあります。あとはもちろん、ガラスの入れ替えということもありますね。これは外断熱と内断熱工法の重点イメージなんですけど、これは細かくて見えないうのでこれはちょっと飛ばしますね。ですけど、結構新築時に断熱工事をやるより、実際改修の断熱というのは新築と同様な形で求めると、実は新築以上に費用がかさむんですね。ですけども、コストを抑えて効果も期待できる断熱もあります。先程、紹介した断熱遮熱塗装による改修というのがありまして、これは非常に商品名で言いますと「ガイナ」とか「キルコート」なんていうのが塗装断熱です。「ガイナ」は、ロケットの先端に塗って非常に効果を発揮してるものです。そういったものがあります。あとガラスに塗るものは「フミンコート」といって、これも非常に効果があるものです。あとは先程の話でもありまして、今のある建物の外溝のサッシの内側の窓枠にプラスチックの樹脂の窓を付けたりする、商品名でいうと「ブラマード」とか「インプラス」ですね。こんなふうなものもあります。あとはもっと手軽に安価にできるように、DIYで作業できるようなホームセンターでキットが売ってたりするようです。これなんかも採用してみるのもいいのかもしれない。これの写真もそう少し鮮明に見せたいところなんですけども、左上のやつが簡易DIYのキットですね。あとはこの真ん中の上のものが、コーティングしたフミンコートなどのコーティングです。そういった断熱改修でも実際断熱材張り込むというより、塗装をおこなったりする断熱でも非常に効果が確認されていたりということで、それをご紹介しました。あとは、断熱だけではなくて換気なんかも非常に大切なエコの手法でありまして、日本は高温多湿の気候ということで、夏場は窓を開放して南と北の窓を開放することによって非常に通風が生まれますので、そういった形で、パッシブという形ですけど、エアコンとか機械に頼らない室温調整ということもできますので、断熱がしっかりしていればそういったこともできると思います。最後に幾つかこういった改修に使える補助金の案内をしようと思っていました。実際、この断熱改修に対する補助金というのは様々出てるんですけども、非常に人気がありましてこの後、充さんのほうからも紹介されるのはポイント制で、そちらは皆さん申し込めばポイントとして還元できるらしいですが、これから私が紹介する補助金については抽選になる可能性が非常に大きいようです。断熱リノベーションの補助金で120万円が出るとか、資材建材を使うと200万円とか。あと、地域型住宅補助金というのが110万円出たり、これは木造新築改修、新築改修と書いてますがほぼ新築じゃないと取れないようです。あとは先程軽く説明しましたが、ネット・ゼロ・エネルギーハウス、ZEHも作った時の新築購入改修資金として60万円の

補助金とかですね。あと、エネファームも設置すると補助金が4万円出るとか。これらもすべて抽選になるのかなと思います。あとは、長期優良リフォームですね。これも改修工事について補助金が300万円、これも令和3年度も継続でやっているかと思っています。あとは、都道府県、市町村のこれは地域の補助金ですけども、これについても地方自治体補助金ということで、これは金額はまだ未定ですがこういったものも改修対象の補助金になっています。最後に、地球温暖化防止抑制というのは、絶対解決しなければいけない世界の課題ということで、我々ロータリアンとしてもいろんなアプローチで地球温暖化を解決すべく行動をしなければいけないのかなと思っています。断熱改修というのはその手法の一つですけども、ちょっと若干お金がかかりますが、我々一人一人が実行できて、尚且つそれが自分でも良さを実感できるものだと思います。断熱改修に興味を持たれたなら、是非白河西ロータリークラブの建築関係メンバー沢山おりますので、皆さん多分相談すればいろいろ相談に乗ってくれると思います。コストの中で最大の結果が出るように、多分親身になって知恵を出してくれると思いますので、是非是非ご相談ください。

○吉田充会員



鈴木孝幸さん、ご苦労様でした。紙ベースの資料を皆様の机の上に置いてあると思います。孝幸さんのほうから今、住宅に関する建築全般から住宅についての流れのお話があったと思うんですが、私のほうは本当に孝幸さんの補佐的な部分で考えてもらえればいいのかというふうに思うんですが、令和2年の3次補正予算が閣議決定したということで、国土交通省からコロナウイルスの影響で落ち込んだ経済回復するために、一定の省エネ性能がある住宅などに対してグリーン住宅ポイント制度というものができるというふうな形で、まだ国会等では通っていないのですが、既に資料は国土交通省のこちらお渡しした資料はそちらのほうからダウンロードできるような資料ですので、その資料に基づいてお話をさせていただきたいなと思います。先程言ったように、今回コロナ禍の中で各業種でかなりいろんな意味合いで影響を受けているという部分で、住宅なんかに関してもその影響が出るであろうということで、国のほうでこういった政策を打ち出したのだと思います。その中で、このポイント制度についてですけども、まずそのポイントの部分でいくと令和2年12月15日から令和3年10月31日までに契約を締結した一定の省エネ性能を有する住宅の新築（持ち家、賃貸）一定のリフォームや既存住宅の購入が対象になるというふうなことで、その一番上のほうに住宅の新築（持ち家）というふうな形であります。その中の通常の住宅ではなくて、今、孝幸さんのほうから言われた省エネ性能等の高い住宅というのに対して、カッコ書きに書いてあるように認定長期優良住宅、認定低炭素建築物、性能向上計画認定住宅、ZEHというふうな形の住宅に対しては、基本の

本日のプログラム

■会長の時間



吉野敬之会長

皆さん、こんばんは。いよいよ、今日からハイブリット例会の開催です。只今、テストで繋げていた部分、先週勉強した部分ですが、皆さん繋がっておりますでしょうか。私の顔は皆さんのもとに届いておりますでしょうか。丸のサインを送っていただいた方がいたので、無事届いてるようでございます。いよいよ、今日からハイブリット例会のほうが始まりまして、この例会開催にあたりましてはIT委員会委員長鈴木典雄委員長をはじめ委員会の皆様、それとオブザーバーで協力していただいた諸橋さんをはじめ、様々な方達のご協力により、今日から開催することができるようになりました。この開催の形が無事に続いていくようであれば問題なく続いていくようであれば、今後いろいろな所に利用拡大が望まれると思いますので、非常に期待しているところでございます。本日は、ちょっと先日ある方からお伺いしたお話を皆さんにお話したいというふうに思っております。皆様、面白いという言葉はご存じかと思いますが、面白い。漢字で書くときどういう字を書くかわかりますでしょうか。面が白いと書いて面白いというわけですが。この言葉の語源をちょっとお聞きしたので、ご披露したいというふうに思います。この語源が実は日本書紀に出てきます天照大御神と須佐之男命のお話に由来してるそうですので、中目宮司さんにおかれましてはもうよくご存じのお話かと思えますし、釈迦に説法みたいな感じになっちゃう。中目さんは釈迦じゃなくて、なんて言うんですかね。神主さんに御祈禱みたいな感じになっちゃうかと思うんですが、ちょっと恥をさらしながらお話をさせていただきたいと思います。面白いの語源は昔、須佐之男命というのは非常にやんちゃが過ぎる神様だったそうでございます。わからやすく言えば、去年までの堀田幹事みたいな感じですかね。飲むとちょっとおいたが過ぎる時があるぞというような方だったそうでございます。一方、そのお姉さんになるんですかね。天照大御神は非常に穏やかで太陽の神様でございますので、うちの会でいきますと関谷さんとか安倍先生みたいな感じで、穏やかで皆を照らすような人材だったと思うんですね。普段からこの堀田君、須佐之男命はいろいろ悪さをしてたらしいんですが、それを安倍先生が、もうちょっとおいたはやめとけよとお叱りしてたらしいんですけど一向に言うことを聞かない。それで、業を煮やした天照大御神、安倍先生は、もうお前らのことは知らんと言って天の岩戸に逃げ込んだということらしいですね。そうすると、その岩戸に逃げ込みますと、もともと天照大御神は太陽の神様ですから日が当たらなくなって世の中が真っ暗になってしまったと。その真っ暗になってしまったこれは大変だということで、何とかこの安倍先生を外に連れ出そうということで、皆さんが周りにいた神様が一生懸命連れ出そうとしたら

いんですけども、最後に連れ出せたのはまわりで宴会を開いて楽しいことをして楽しい雰囲気を作ったら、外で一体何をやってるんだということで天照大御神、安倍先生がちょっと岩戸を開けたらしいんですね。ちょっと様子を見たくて開けたら楽しいことをやってる。その時に、ちょっと開けた時に太陽の神様が開けたもんですから、光が空から差してきたと。その時に、皆さんのそこにいた神様の顔に当たった時に面が白く見えた。面白いことをしていた時に、面が白くなったので面白いという言葉ができたというふうなお話、諸説はあるらしいんですが、この前そんなお話を聞きました。実はこの話をさせていただいたのは、私よくお話しする勉強会に行ってる時のお話なんです。今の世の中、非常にコロナの中でなかなか外にも出られない規制がかかったり、どちらかというと暗い世の中でございます。ですが、やっぱり人はみんな楽しいことを求めているでしょうし、楽しいことがあれば外に出てきたり、今は自主規制ですので外出自粛ですので外に出るということではないんですが、外交的にいろいろな事にチャレンジ、家の中でもできるようになってくるのかなというふうに思います。ロータリークラブというのは奉仕というものを通して、きっと地域の皆様方にそういった面白い楽しいもの、嬉しいものを届けることが、きっと使命の一つなんだろうというふうに思っております。本日のプログラムは、そういう職業奉仕を通して住宅というものを通して、地域の皆様方に面白い、楽しい、健やかだというようなものを届けてるお二人の設計士さんと建築士さんのお話だそうでございますので、楽しみに聞かせていただきたいと思います。お待ちしております。よろしくお願いたします。

■幹事報告

堀田一彦幹事

- 白河市赤十字奉仕団 委員長 安澤荘一：白河市赤十字奉仕団奉仕活動報告についてのお知らせ
- 和光：和光ロータリークラブカタログ
- 2020-21年度ガバナー事務所：2020-21年度地区大会関係書類
- 2020-22年度ガバナー事務所：公式訪問集合写真
- 2020-23年度ガバナー事務所：米山記念奨学会カウンセラー感謝状送付について
- 2020-24年度ガバナー事務所：PARTⅡ、PARTⅢ 終了証並びに卒業バッジの送付について
- 白河市赤十字奉仕団 委員長 安澤荘一：白河市赤十字奉仕団への新規加入団員募集チラシ配布について（依頼）

■米山記念奨学生カウンセラー感謝状授与式

○感謝状

白河西ロータリークラブ

阿部克弘殿

貴殿は公益財団法人ロータリー米山記念奨学生のカウンセラーとしてご奉仕くださいました。日本と世界の信頼がますます深められることを願っています。ここに貴殿のご尽力に対し深く感謝の意を表します。

2021年3月 公益財団法人ロータリー米山記念奨学会
理事長 齋藤直美



○ R L I 卒業証書授与
吉野敬之会長、堀田一彦幹事



■委員会報告

○ I T 委員会

横田俊郎副委員長



皆さん、こんばんは。IT委員会ということで、何もしていないものですからご報告だけさせていただきたいと思います。今日からハイブリット例会ということでございますが、諸事情によりましてZoomの使用時間が40分しかないというのが現状でございます。ご了承いただきたいと思います。ご質問に関しましては、後程受けさせていただきますのでよろしくお願いたします。

■本日のプログラム

会員卓話

「高齢化・少子化による建築の時代の変化」

鈴木孝幸会員・吉田充会員

○鈴木孝幸会員



齋藤孝弘委員長にいただいた宿題ですが「高齢化・少子化による建築の時代の変化」ということでございまして。非常に難しいお題目で、とりまとめがなかなかうまくいかなかったんですけど、まず「高齢化と少子化による建築の時代の変化」ということで、サブテーマが「健康と地球環境に配慮した建築の作り方」ということで進んでいきました。まずは、今の古い住宅状況と最近の住宅のトレンド、傾向。それをちょっと比較してみました。まず、この地域で一般的な古い住宅というのは、船がい造りというふうに呼ばれている住宅ですが、古民家みたいなものにちょっと近かったりするんですけども。そちらの特徴は、今の住宅に比べて非常に高級住宅である。船がいというのは船に木辺の世と書いてせんが

いと読むんですけど。威風堂々とした特徴。あと、富の象徴。あと、広い部屋だったり高い天井。夏涼しくて、冬寒い。あと、職人の手仕事で作っている建築です。工事費が高額、多世代住居の住居で住んでいると。バリアフリーは全然考えていない感じですね。あと丈夫で長く住める、そういった特徴があります。今、写真がこれですけども、こんなふうなこれ最近の船がい造りの建物ですね。こういった特徴があります。この梁を脇から出して、ひじぎで受けて、軒を深く出しているというような構造ですね。最近の船がいの中身はこんなふうな感じです。広い和室が三間続きであったり。これは古民家ですね。中に炉が切っあって、ここで昔、過去に火を焚いて梁が黒いのは全部すすで黒くなって、これで虫の発生を抑えていた。これについても古民家ですけども、これは先程の構造から天井を貼ったというような最近改修されたものですね。こういった形の特徴があります。あと、古民家や船がい住宅の最近衰退した理由として、いろいろ価値観が変化してきた、和風の在り方の変化。こういった船がい風、お城的な時代劇に出てくるような建物ではない現代風の数寄屋が好まれるようになったとか、生活スタイルの変化ですね。リビングダイニングとカウンターキッチンとそういったものに流れて、こういったものは好まれなくなった。多世代で生活しなくなった。少子化で家族数が減少した。人数ですね。あと、核家族で皆外に出てしまって、無駄に広い家は不要になってきたみたいな理由があると思います。良いものを長く代々受け継ぐとか、そういったものは好まれなくなってきました。時代のトレンドを追いかけて、もっとおしゃれな住宅に住みたいということで、こういったものがだんだん廃れてきたと。おまけに、断熱材が土なので冬寒いです。やたら広いんですが、光が届かないので暗いです。建築コストも非常に高いです。あと、造る職人が減少してなかなか造れない。ただ、衰退したといえども一部富裕層の方にはまだまだ船がい造りのニーズはあります。そして、次に最近の住宅ですね。親と住まない核家族的な住宅の傾向です。まず、低コストですね。手の届く価格。最近、やっぱり給料とか年間所得なんかも少なくなっているということで手が届く金額のもので、土地付きのもので一家の主になりたいと。大体30坪以下のもので和室がなかったり、そういったものが多いです。あとは総二階で個性が薄いものが多いですね。あと自然素材の仕上げはほぼ無し。船がい造りのものと本当に相対するものですね。あとはこちら辺は凄いですけど、高気密高断熱で暖かいという住宅やっぱり多いですね。バリアフリーを考えたいたり、省エネ。あとは創エネ、創るエネルギーですね。太陽光、地中熱とか、太陽熱を採用するところは結構多いですね。絵的にはこんな感じですね。総二階で



ちょっと寂しい感じですね。窓も小さいですね、こういった形で。こんなふうなものが結構建っているという感じですね。非常に事情はわかりますけども、ちょっと寂しいですということでもしています。あと、高齢化により近年の建築の求められるもの、先程のテーマにもありましたので、これも触れておきます。バリアフリー化ですね。あと、ユニバーサルデザイン。ユニバーサルデザインって皆さんご存じだと思いますが、子供から老人までみんなが使いやすいようなデザインされた内外の環境ですね。あと、目が老化したり車いすになったり杖をつくようになったりした時に便利であると。あとは、介護になった時にゆとりある介護スペースを考慮した住宅もやっぱり求められています。あと、高齢化になりますとヒートショックとか血圧の変化を少なくして、心筋梗塞の防止という観点から、夏涼しく冬暖かく一日中温度変化の少ない室内環境の住宅が求められています。徒歩で成り立つ利便性のある立地条件であったり、スマートハウス、スマートホーム、これも私もこれまでもよくわからないけども、これも使いこなせば省エネ、便利で安全になると思います。あとは、近隣コミュニティを可能とする住環境も重要だと思います。これは雪なので除雪の環境ですね。そういったものも、高齢者による必要となる環境ですね。それでは、今の時代を鑑みて先程提示した以下の項目について掘り下げていきたいと思えます。夏涼しく冬暖かい24時間温度変化が少ない室内環境ということで、これは本当に後期高齢者には必然な住宅環境だと思います。通常の健常者が住むのも非常に快適な住まい環境。これを実現するには、断熱が必要不可欠です。ということで、今までの題目が非常に難しかったので、ここでちょっと題目をいきなり変えます。ここで「エコで快適、断熱住宅のすすめ」ロータリーのメンバーの皆さんが見ていただいて、多分断熱住宅など非常に興味を持っているのじゃないかと。こういった情報も非常にためになるのかなということで、先程の高齢住宅のところから断熱というところに焦点を絞って話させていただきます。サブテーマで、「リフォームでもできる断熱工事」。最近ではコロナ禍で外出が自粛になりました。在宅時間も増えて、冷暖房費がかさむようになります。高气密高断熱建築で将来においても経済的な家、家だけでなく職場なんかもつくりをしましょうということで、こんな内容ですね。ちなみに、2021年4月、今年の4月から地球温暖化対策のために改正建築省エネ法というものが施工されることになりました。こういったものかといいますと、簡単にいいますと、新築時に300平米以上の非住宅建築物、住宅じゃないものとか、住宅は同じように300平米以上のものは届け出義務になったり義務化になったり、ある程度今までこういった基準は本当に大きい建築にしかなかったんですけども、これからはもうエネルギー垂れ流しの建築では駄目ですよ。やっぱり、そのエネルギーを有効に使う、無駄にしないという建築が必要ですよということが、2021年の4月以降に開始されるようになりました。300平米未満の住宅というのは、我々には馴染みがある規模なんですけども、こ

らについても指導で努力義務という形で指導が入るようになっていきます。そういった背景です。あとは皆様よくご存じのとおり、2030年に車も化石燃料を使わないようにという形で、地球全体で今一斉に温室効果ガス削減に働いていきます。我々ロータリアンとしても、住宅とか職場の省エネ化で温室効果ガス削減に貢献しましょうということで断熱の話ですね。まず、建築の省エネ仕様ということでちょっと触れておきます。今、建築の省エネ仕様、皆様も知ってる方もいるかもしれませんが、こちらカッコ書きにZEB（ゼブ）とかZEH（ゼッチ）と書いてあるんですけど、ネット・ゼロ・エネルギー・ビルディング。ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス。要するに、断熱をして高性能なエアコンとか家電を使って、そしてパッシブ、通風とか日射制御したり、ナイトパーズといって夜に熱い空気を外に出して冷たい空気を取り込んで翌日の冷房負荷を下げたり、あとライトシェルフといって光の反射をうまく利用して日中建物の奥に光を取り込んだり、ハイサイドライトといって高窓ですね。そちらから高い所と低い所の温度を利用した環境を作ったり、光を取り入れたり。そういったことを様々なことをやりながら、あとは創エネ、太陽光発電をやったりしながら、トータルでエネルギーをゼロにしようという動きが今あります。こういった省エネ手法があるんですけども、やはり省エネの基本となるのは断熱です。ここでは断熱について考えていきます。断熱というのは、新築で作る時にはいろいろハウスメーカーそれぞれで提案してしまっていて、いろんな断熱の方法があります。それはいろいろその考え方において、充填断熱であったり、外断熱であったり、いろいろこういった現場発泡の断熱であったり、それは設計事務所の考え方、ハウスメーカーの考え方それぞれありますが、あの手この手という形で熱に対する有効性というか、熱貫流率を下げていくというような形で設計は進められるんですけども、開口部についても今は五重のガラスが出たりしています。こういった形でいろんな方法がありますが、実際現実的に皆さんが興味あるのは今住んでいる家をどのようにすれば非常に住みやすい断熱改修をおこなって断熱環境を良くすることができるのかなということが興味があると思います。実際、私のほうにも断熱改修の相談をされる方がやっぱり非常に多いです。ここで断熱改修工法、改修について焦点を当てて話をします。断熱改修工法の種類としましては大きく分けて、壁、床、天井、開口というふうに分けることができます。壁については、内張りの断熱。あとは外部については、壁については外から張る外張り断熱、これも改修で可能です。あとは、遮熱断熱塗装というのがありまして、それを外壁に塗ったり屋根に塗ったり、内側の壁に塗ったり外側の壁に塗ったりする塗装断熱というのがあります。あとは、実際新築と同様に壁を一度撤去して断熱材を充填して復旧するというような方法もあります。床断熱につきましては、床断熱を増し張りしたり、床下に潜って断熱の発泡ウレタンをふいたり、そういった工法があります。屋根、天井につきましては、グラスウールを二重に敷きこんだり、内側に